
穴

ヤマダゴロウ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

穴

【Nコード】

N1029A

【作者名】

ヤマダゴロウ

【あらすじ】

穴の底に何故か居る。

深い穴の底にいる。

僕は足元を見つめ、小さな声で唸った。

空はより高く、より狭い。

ねえ君。

僕は本当に君の事が好きだったよ。

君も僕の事が好きであってくれたなら、どんなに幸せだろうか。

一人で居ると、暗い考えで一杯になる。

考える必要もない事だと分かっているのに。

僕は、これと言って出る必要もなく、なにかをする予定もなかった
ので、しばらくその場で少し考える事にした。

このままここでくちるのも悪くない。そんな甘い思考が沸いて来た。

今までは微かに上から光が射し込まれていたのだが、急に注がれて
いた光がなくなった。

何故だろうと不思議に思い、僕は空を仰いだ。

青い空は見えなくなったが、微かに漏れる光に目がくらむ。

どうやら光を蓋していた物は、生き物のようだった。

その影が微かに動き、僕はそれを察した。

「誰がいるの？」

聞きなれた声に、目を見開いた。

返事をしようかしまいか考えていると、

先に影が音を發した。

「あら、こんな所で何してるの？」

僕は微笑んだ。

「ああ、君か…。」

「どうしたの？」

僕はなんだかおかしくなった。

確かに僕は、こんな深い穴に落ちてまで、何をしているのだろうか？
君は僕を見ていた。

「落ちちゃったの？」

僕は笑って答えた。

「どうやらそうみたい。」

差し込む光に目がくらみ、僕はずっと目を細めた。落ちるは奈落の底。

e n d

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1029a/>

穴

2010年10月22日07時31分発行